

J Aの窓口担当者が接客技術を競う

金融課

第3回J Aバンクあきたアカデミー窓口コンテストが12月5日、秋田市文化会館で開催され、県内15J Aから15組（2人1組）の窓口担当者が接客技術を競いました。

当J Aからは藤里支店の石岡邦子支店長代理と斉藤愛美さんが出場しました。入金にきた来店者へ定期や積立などの金融商品を勧める設定で行われ、チラシを使い丁寧に説明をしました。出場した斉藤さんは「普段見ることのできない他J Aの窓口の接客技術を見ることができとても参考になりました。学んだことを活かし窓口職員としてレベルアップしていきたいです」と話してくれました。



▲基本応対や提案力などが審査された



▲今後の出荷に向け規格等を確認

消費者に選ばれる商品作りを

アスパラガス部会

アスパラガス部会（山谷清英部会長）12月17日に目揃会を開催し、部会員やJ A、市場関係者など18名の参加のもと、市場動向や出荷体制の確認などを行いました。

はじめに、山谷部会長が「春からの好天で干ばつの影響が心配だったが、根株の掘り取りの調査では、糖度も高く株重もありこれからの収穫に期待が持てる」と挨拶しました。また、横浜丸中青果の加藤氏の情勢報告では「これからの需要期に向けて適正な管理をして、いいアスパラガスを出荷してもらいたい。白神アスパラガス主体の販売となるので、単価維持に努め有利販売をしていきたい」と話されました。

平成27年度トマト出荷実績検討会を開催

園芸部会

園芸部会（畑山悦雄部会長）による、平成27年度トマト出荷実績検討会が12月10日にプラザ都で開かれ、生産者やJ A、地域振興局職員、市場関係者など約20名の参加のもと、今年度の栽培状況や出荷実績について協議されました。

今年度は高温・干ばつの影響による出荷の早まりや、尻腐れ症状などの病害の発生が多く11月末実績で数量38.4t、金額12,343千円と目標には届きませんでした。しかし、秋田県立大学と共同で研究した「低段・多段試験栽培」の圃場では、収量が1～4割程度向上した結果となり次年度へ向けて、新たな栽培体系の検討もされました。



▲次年度の活動についても協議された



▲廃プラスチック回収作業の様子

管内の3地域で廃プラスチック回収を実施

営農企画課

ビニールや肥料袋などの農業用廃プラスチックを回収し、J Aが代行処理申請を行う取組みが12月5日、各営農センターで行われました。

この廃プラ回収は、環境保全と不法投棄を防ぎ、使用済みの廃プラ類を適正処理するための手助けとして、年数回行われています。当日は、J A青年部員やJ A職員ら6名が農家からの処理委託に対応しました。営農センターには、廃プラスチックを積んだトラックが次々と訪れ、全体で46名、約6.3tが処理委託されました。利用者からは、「J Aが私たちの代わりに廃棄処理をしてくれるので非常に助かっています。」と喜んでいました。